

「まごころプラン」で小中一貫教育を推進！ 特色ある水戸の教育で“水戸人”の 育成を目指して

地域の
特色ある
活動

茨城県水戸市教育委員会

1 はじめに

本市は、首都東京から約100キロメートルの距離にあり、関東平野の北東端に位置する茨城県の県庁所在地です。歴史と伝統に育まれた本市は、かつて徳川御三家のひとつ・水戸藩三十五万石の城下町として栄えました。さらに日本三名園のひとつに数えられる偕楽園や水戸の藩校として徳川斉昭公により創設された弘道館は、「近世日本の教育遺産群」として日本遺産に認定されました。

本市には、現在、公立として幼稚園が19園、小学校が32校、中学校が15校、義務教育学校が1校あります。また、国立大学法人茨城大学附属の幼稚園、小学校、中学校があり、幼児児童生徒が約21,000人通っています。2012年度に小中一貫教育を本格化させ、2017年度からは、義務教育学校を除く市内全ての小・中学校を「併設型小学校・中学校」へ移行しました。9年間を見通した児童生徒の発達と学びの連続性を重視した特色ある教育課程を編成しています。

2 小中一貫教育推進事業「まごころプラン」について

本市の教育目標である「知性にとみ、心身ともに健全な風格をそなえた人間（水戸人）」の形成を図るためには、「個々の子供の成長のためにどうするのか」という子供側に立った視点で教育していく必要があります。ここでは、小・中学校が連携した取組や水戸ならではの特色ある教育を体系化した小中一貫教育「まごころプラン」について紹介します。

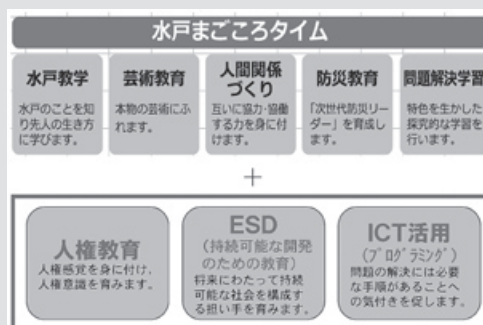
水戸市マスコットキャラクター
みとちゃん



(1) 教育課程に位置付けた「水戸まごころタイム」の推進

2015年度に教育課程特例校の指定を受け、水戸の特色ある教育である、水戸教学、芸術教育、人間関係づくり、防災教育、問題解決学習の五つを「水戸まごころタイム」として創設しました。

今年度は、2020年度から全面実施となる新学習指導要領を受け、新たに三つの内容を加えました。



本市では、全ての「水戸まごころタイム」の評価規準表を作成し、学力向上に向けた取組の充実や保護者・地域への発信の強化を図り、地域と共に歩む学校づくりを推進しています。

(2) 英会話の実施

国際化に対応できる子供たちの育成を目指し実践的なコミュニケーション能力を育成するため全ての市立保育所、幼稚園、小学校・中学校・義務教育学校に、英語指導助手（AET）を配置し、その活用を図りなが



ら、英会話の指導を推進しています（2020年度からの新教育課程に先駆け、国の基準を上回る授業時数を実施）。

(3) 「水戸教学」の充実

水戸は学問を大切にしてきたまちです。この伝統を現在の教育に生かしていくのが「水戸教学」です。「水戸市歌」「水戸郷土かるた」社会科副読本「みと」「水戸の歴史」「水戸」などを活用することで、学校や地域の歴史・文化などに愛着をもつことができる教育を推進しています。

(4) 水戸ならではの芸術教育の実施

水戸室内管弦楽団による演奏や水戸芸術館専属劇団 ACM による演劇を鑑賞する機会を設けています。また、水戸室内管弦楽団メンバーによる吹奏楽セミナーや全中・義務教育学校の代表学級による合唱発表「合唱の祭典」を水戸芸術館ホールで行う等、本物の芸術に触れることの学びを重視しています。



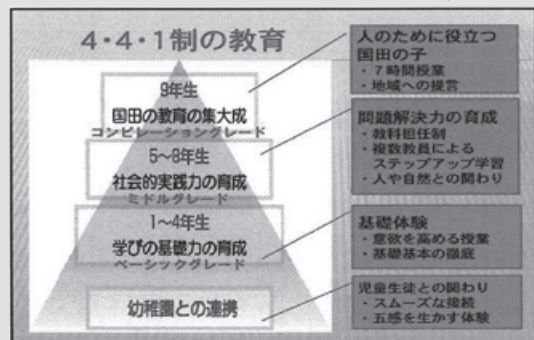
3 水戸市立国田義務教育学校の取組

全国に義務教育学校は48校あります。本市でも県内初の施設一体型小中一貫教育校として、平成7年に開校した水戸市立国田義務教育学校（通称：さわやか国田学園）があります。

平成26年度：国田小中学校校舎内に国田幼稚園を移転。小規模特認校制度の導入
 平成28年度：全国初の義務教育学校の一つとして開始。
 平成30年度：「第51回全国小学校理科学研究協議会研究大会」会場校

(1) 4・4・1制の特色ある教育活動

発達段階に合わせたきめ細かな指導が可能



となり、義務教育の出口に焦点を当てた特色ある区切の4・4・1制を採用しています。

(2) 多様な授業形態による学習指導の充実

- ① 個に応じた指導の重視（基礎基本：TTによる指導、発展・応用：複数教員による週1回のステップアップ指導）
- ② 1年生からTTによる指導（算数・数学）
- ③ 5年生から完全教科担任制、午後は50分授業の導入（4年生までは一部教科担任制）
- ④ 英語専科教員とAETによる1年生からのオール・イン・イングリッシュの英会話
- ⑤ 幼稚園を含めた異学年交流活動の充実

4 小規模特認校の取組

本市では、国田義務教育学校に加えて、平成30年4月から市内3校で新たに「小規模特認校制度」を導入し、少人数のよさを生かした特色ある教育を広く市民に提供しています。



5 おわりに

本市は、平成32年4月からの中核市移行を目指しています。県費負担教職員の研修等を本市独自の特色ある研修として新たに実施し、教員の資質や指導力の向上に結び付けてまいります。

「水戸を愛し、世界で活躍できる人材の育成」を基本理念として、水戸ならではの魅力ある教育の推進に努めていきたいと考えています。



教育長
本多清峰